



有吉  
利枝さん  
Rie Arigoshi

Profile

ありよし りえ (37歳・羽ノ浦町出身・横浜市在住)

1979年8月14日生まれ。ボート競技ローイング・ダブルスカル選手として、2016年9月のリオデジャネイロ・パラリンピックに出場。羽ノ浦中学校卒業後、富岡東高校を経て東京商船大学(現在の東京海洋大学)に進学。現在は、あんしん財団に勤める。3級海技士、3級海上無線通信士の資格を持つ。趣味はカラオケ。好きな食べ物は、肉料理なら何でも。

障がいを乗り越え、  
全力のオールさばきで世界に挑む

今年9月に開催されたリオデジャネイロ・パラリンピック。有吉利枝さんは、日本代表としてボート競技の会場であるラグオスタジアムのスタート位置についた。「ローイング・ダブルスカル(男女二人乗り)」で、自身初となるパラリンピックの舞台。1000メートル先のゴールをめざし、ペアを組む駒崎 茂さん(54歳・栃木県)と息を合わせて全力でオールを漕いだ。

阿南市で生まれ育ち、幼い頃から海が大好きで、海水浴にもよく出かけた。いつしか芽生えたのは、大海

原をまたにかけて活動する航海士へのあこがれだったという。この思いを胸に、富岡東高校卒業後は、東京商船大学(現在の東京海洋大学)への船船の運航や管理などを学び、海外への遠洋航海も体験した。大学卒業後は、横浜港で船舶に水路情報を送る会社に勤めた。

しかし、2005年10月4日、仕事にも慣れ始めた矢先のことだった。いつものようにバイクで通勤する途中、大型トレーラーと衝突。右足を切断、左足もまひする大けがを負った。長い入院生活が続ぎ、リハビリに取り組む日々。そんなときに

一筋の光を与えてくれたのが、指導員からの一言だった。「横浜で開催されるヨットの大会に出場してみないか」。これをきっかけに、ヨット競技に取り組み始めた。大会などを通して世界で戦う楽しさを知り、次第にパラリンピックに出場したいという気持ちを強くした有吉さん。2008年の北京パラリンピックで正式種目になり、まだ競技人口が少ないボート競技に注目し、2014年2月に転向を決意した。

ローイング・ダブルスカルは、一般のボート競技とは異なり、上体と腕の力だけで約5分間漕ぎ続けなければならぬハードな競技だ。学生時代の厳しい乗船実習で培った忍耐力が、現在の有吉さんを支えている。ポジションは、進行方向側で駒崎さんの後ろ。しかし、本番が目前に迫ったある日、ペア誕生以来変わらなかったポジションが変更となった。

「これまでは前に駒崎さんがいたので、駒崎さんの動きに合わせて漕ぐことを意識していました。変更後は自分でペース配分を考えなければならぬので難しかったです」と振り返る。「でも、レースでは力を温存せず最初から最後まで全力で漕ぎ続けるよう指導されています。めざすのは、それに耐えられる筋力をつけることです」と笑顔を見せる。

2015年8月、フランスでの世界選手権に出場。今年4月には、イ

タリアで行われた最終予選で6位入賞。アジア地区の大陸枠で出場権を獲得し、リオパラリンピックへの切符を勝ち取る。その後は、強化練習と強化合宿で厳しい練習に汗を流した。

そして迎えた本番当日。持てる力を全て出しきったが、世界の壁は厚かった。総合12位と結果は残せなかったものの、世界の舞台で得た収穫は大きい。「外国人選手は手が長く、一漕ぎで進む距離が全く違うし、技術面も筋力もまだまだ及ばない。少しでも差を縮めるために、筋力アップとどんな時でもベストの漕ぎ方ができるようにマスターすることが必要」だと語る。今回の経験を前向きに捉え、さらに先を見据えていた。「4年後の東京パラリンピックでは、1つでも上位をめざして頑張ります」と、有吉さんは新たな目標に向かってオールを漕ぎだした。



会場で最終調整を行う有吉・駒崎ペア